バレーボールにおけるレセプション時の効果的なトス配球についての一考察

佐藤　綾一（長崎大学）

Ⅰ．目的

本研究の目的は，高等学校男子バレーボール競技の試合において，サイドアウトを獲得するために重要となってくるレセプションアタックについて，セッターのトス配球の傾向とアタック評価の関係を明らかにし，レセプション時の効果的なトス配球に関して有用な知見を得ることである．

Ⅱ．研究方法

１）対象

令和３年度全国高等学校総合体育大会バレーボール競技における男子の３回戦以上全15試合37セット．各チームは全国大会ベスト 16 以上のチームであり，バレーボールの基礎技術が定着している．

２）調査方法

対象ゲームを一旦 VTR に録画，後日再生し，私案のデータ用紙に下記３）の５つの分析項目について評価を記入し集計．統計的な有意差検定は X^2 検定および残差分析を用い，有意水準は 5%とした．

３）分析項目

(1) レセプション評価［①A パス②B パス③C パス］
(2) セッターのトス配球［ゾーン 1～6］
(3) 攻撃テンポ［1st, 2nd, 3rd］
(4) アタック評価［決定, 継続, ミス］
(5) 相手ブロック枚数［1 枚, 2 枚, 3 枚］

Ⅲ．結果及び考察

全体の結果から抜粋して記載すると，前衛アタッカー2 枚時のレセプション評価 A パス時において，ブロック枚数から決定率を見ると，決定率が高いものの大半は相手ブロック枚数１枚時であった．また，A パス・2nd テンポ時において，ゾーン１やゾーン 6 のサイドアタッカーに対する相手ブロック枚数が多い傾向にあるため，セッターは相手ブロック枚数を少しでも減らす攻撃の工夫が求められる．

表１ A パス・2nd テンポ時のアタック評価(2 枚時)

ゾーン＼評価	決定(本)	継続(本)	ミス(本)	決定率(%)
1	41+	**35****	5	50.6%
2	15	5	1	71.4%
3	8	5	**4***	47.1%
4	4	2	0	66.7%
5	**5+**	0	0	100%
6	12	3	3	66.7%
総本数	85	50	13	

+p<.10. *p<.05. **p<.01

表１からゾーン１については，2 枚時の 2nd テンポでの攻撃での継続率が高く，これが決定率を下げている要因であると考えられる．ゾーン 5 は，決定率 100%である．これは相手のブロック戦術と関係しており，前衛アタッカー2 枚時においては，アタッカーの数が少ないため，相手ブロッカーにマークされやすい．特に相手アタッカーをマークして跳ぶコミットブロックシステムを採用しているチームは，サイドに 2 枚ブロック，センターに１枚ブロックでマークすることが多用されるため，ゾーン間を移動しての攻撃が有効である．このようにアタッカーが相手ブロッカーに簡単にマークされないよう，センターエリアからライトエリアへスピーディーに移動し，片足ジャンプで攻撃するワンレグ攻撃等の移動を伴う攻撃を積極的に仕掛けていく必要がある．

Ⅳ．結論

本研究では、前衛アタッカー2 枚時の A パス・2nd テンポ時における効果的なトス配球の前提として，相手ブロックを１枚にすることが重要である．そのためにアタッカーにゾーン間を移動させて攻撃するようなトス配球が有効である．

Ⅴ．参考文献

１．渡辺啓太，佐藤文彦（2016）レセプションとアタックの成績との関係に関する検討．バレーボール研究，18-1, pp. 40-45.